

グループワーク①「今、文化財の保存や活用で取り組んでいること、感じていること」

文化財×人に関すること

- ・町史編纂、現地探訪など各地域で取り組みを行っている。ただしメンバーが増えない。
- ・少子化が進んでいる。
- ・若者の理解が必要。
- ・小さい時から文化財に触れる機会が必要と感じている。
- ・寺社仏閣に来訪される方が高齢で、今後の存続が難しくなっている。
- ・参加者としては高齢者が多い。若者参加が必要であり、後継者が必要。

文化財×保存に関すること

- ・活用の前に保存が第一である。
- ・歴史文化というとハード(有形)になりがちだけど、ソフト(無形)もあり、大切なもの。
- ・モノ(有形の文化財)の維持管理が難しい。
- ・今後、有形文化財を引き続く者がいないのでないか、困難ではないか。
- ・伝統(無形の文化財)の守り方も難しい。
- ・防災・防犯対策に課題がある。

文化財×活用に関すること

- ・寺社仏閣など、文化財がそもそも知られていない。
- ・文化財の活用をしたいが、方法がわからない(そもそもの価値もわからない)。
- ・ほたる(自然)や蓮如(人物)、古道(中山道、浜街道、道標)、食文化など、守山には誇れる地域文化がある。
- ・地域遺産はあるが、新住民に対するきっかけづくり、取っ掛かりが必要である。
- ・農業を市の産業としつつも、古い農機具の保存や発信ができていないか。
- ・もっと若者が参加できるワークショップなどを積極的に行っていく必要がある。

文化財×資金に関すること

- ・文化財保護にはお金が大変、費用の課題がある。

コーディネーターコメント(まとめ)

- ・新住民と旧住民、若者と高齢者といった対立するものの動きは地域によって、ほんのちょっと違いがあって、それがなかなか埋められないというところがあるので、その辺を細かく見てもらえたら嬉しい。
- ・報告を聞いて、本日参加いただいている方々は文化財を保存することが大切だという共通認識があって、大変ありがたい。ただし、それは一般的ではない。
- ・関心を持つ、知らないことを知る、こういった小さなきっかけをどれだけつくれるかというのが大事だと思う。
- ・また一方で、社寺など地域のおける存在意義を広く知らしめていく必要がある。小さな時から文化財に触れる、例えば他市町村では古写真などを学校現場の副読本として活用し、まちの誇れるものに関してアンケートをおこなえば、「歴史文化」が上位にあがってくる。学校教育の現場でもっともっと地域を大好きなってもらえるような取り組みができればと思う。

グループワーク②「今、文化財の保存や活用で必要なこと、求められていること」

文化財×人に関すること

- ・他の(文化財に関わる)団体の話が聞けたり、連携ができればいい。
- ・広域で関わりを持っていくことが必要。
- ・各地域や各社寺で温度差があり、例えば仏教会や神社庁などとも連携ができていない。同じ目線で関わっていきたいし、連携していく必要がある。
- ・専門家のサポートも必要だし、地元の郷土史家なども巻き込んでいくことが必要。
- ・文化財を継承していくのが何より難しく、若者の理解が必要。
- ・地元は好きだけど、「文化財の保護」となると身をひく人もいる。昔からの人(高齢者)と若者との意識のずれを整理していく必要がある。

文化財×保存に関すること

- ・文化財に関する情報の共有、継承が必要。ほっておくと、知られずに失われていく。
- ・ほたるを文化財というが、ほたるに関する資料保存ができていない。資料保存の設備が必要。
- ・社寺仏閣を観光資源というが、地域に根ざしたものとしていくことが大事。
- ・家から出てきた古文書など、解説、調査してくれるような補助があると有難い。
- ・個人で文化財を所有している方は将来に課題がある。
- ・知ってもらうこと、関わりを増やすこと、わかりやすく発信することと防犯対策の両立、バランスが大切(レプリカ公開などの手法もある)。

文化財×活用に関すること

- ・取っ掛かりをつくる必要がある。それは対象にあわせて、例えば子どもの入り口(スタンプラリー)づくり、大人の入力口(食、健康)づくりといった、何かと文化財をミックスして発信していく。そのためには地域、行政、子ども会などが連携して取り組んでいくことが求められる。
- ・文化財を保存活用する施設も必要ではないか。
- ・ちょっとした鳥居などにも説明版を設置すると良い。
- ・何より楽しんで取り組みたい、それによって裾野が広がってくと思われる。

文化財×資金に関すること

- ・文化財の保存活用をしていくには、資金、設備、担い手が必要。

コーディネーターコメント(まとめ)

- ・例えば、話のあった「農機具」をどう考えるか、日本構造線の日本海側と太平洋側で地質が違い、農法が違う。このような学際的な問題は専門家がやっているし、蓄積もある。ただ非常に細かい、農機具の刃やタイヤがどうであるとか、そういった問題は学術的にはほとんどネグレクトされてきた。それを埋めて、さらに「食べ方」や「味」といった食文化まで見通すと、観光客を呼べるものになるかは今のところわからないが、学術的なところから食文化まで「つなぐ」ことが可能ではないかと思う。
- ・話にあったように、楽しみながら、これまでの文化財のイメージを変えていく必要がある。
- ・各団体が情報を共有し、さらにマッチング機能を持つことで、お互いの仕事が効率化し、相互扶助の関係が生まれる。
- ・文化財の保存と活用は相反することが多い。活用すれば、話があったように防犯上の課題などが生まれるので、この辺についても配慮していく必要がある。

グループワーク③「これからの「文化財でつなぐ、守山」の実現にむけて」

文化財×人に関すること

- ・やはり人が大事で、文化財とともに人をつなぐことが大事。協議会みないものが必要。
- ・人と人とのつながりの中でマルシェであったり、イベントであったり、また現在中心にいる人々以外にも巻き込みながら、「オール守山」で実現していく必要がある。
- ・高等教育機関や観光事業者などの民間企業との連携や協力関係が必要。
- ・優秀な学芸員が必要。
- ・人のつながりが大事で、行政のみならず、ボランティア団体、保存会などいろんな主体が参画する体制づくりが必要である。
- ・行政のなかでも文化財関係課のみならず、地域振興、観光関係課なども参画する、一つの課にとらわれないような体制であるべき。
- ・専門家だけじゃなく、一般市民も巻き込んでいく。
- ・世代を超えた関わりやつながりが大事である。

文化財×保存に関すること

- ・つなぎ続けること、(保存の)連続性も大事。
- ・やはり「個」(個別文化財)を大切にしていくことも大事。

文化財×活用に関すること

- ・文化財を共通のストーリーやテーマでつないでいく。
- ・同じようなもの(文化財)をつないでサミットなどを開催する。また違うもの、異質なものをつなぐことで、新たな取り組みができるのではないかと(サイクリング×文化財など)。
- ・守山市はサイクリングやウォーキングが盛んで、その辺と連携しながら活用事業を進めていく。
- ・市内文化財を巡るツアーを企画し、自転車をつなぐ、ルート整備などをしていく必要がある。
- ・実現してくうえでは継続的な学習の場、気づきの場が必要。
- ・矢島かぶらなど守山の食文化を観光資源として活用していくことができる。
- ・子どもが遊びながら学べる史跡公園や伝統行事の教室などが必要。
- ・SNSの活用していく。
- ・具体的な手段として、どこに相談していいかの見える化、窓口ホームページの作成であったり、組織などを作っていくのが大事ではないか。

コーディネーターコメント(まとめ)

- ・皆さんの話を聞いて、継続するにしても、広げるにしても、やはり個人が大事と思う。
- ・参加者の中から、「つなぐ」ための体制づくりや市内の連携、広域連携という話までできたのは、素晴らしいと思う。また、ただつなげればよいというわけではなく、核となる個別文化財を大切に、ちゃんと学術的に裏付けることがまず大事で、そういった意味で話のあった相談できる窓口の見える化は大事なことだと思う。

コーディネーター全体総括

- ・感想になるが、皆さんの話にとってもまとまりがあって、全体がスムーズに進み、非常にうまくいったなという印象を受けた。
- ・継承するという問題がとても大事だという共通認識が参加者の中であったと思うが、「若い人」に継承といっても、人によって若い人の定義が違う。これは大事な問題で、どの辺を若い人として想定し、継承していくか、よく考えてほしいと思う。
- ・人も文化財という話があったが、有形の文化財という、いずれ壊れていくものを、有限の人生の中で人々が見つないできた。それを考えるとやっぱり人が大事だということになる。
- ・そのなかでどうしたら守山の人々が幸せになれるか、それが文化財の保存と活用であると思うし、今回のような場でお互いの実例などを紹介しあうことでヒントになるかもしれないし、助け合うこともできると思う。是非またこういった機会や意見交換なり、協力関係を築くなり、「つながれる場」を引き続きつづけていってもらえたらと思う。